

---

## 領域名：老年保健看護

報告者：山口初代

---

### 教育及び実践の課題

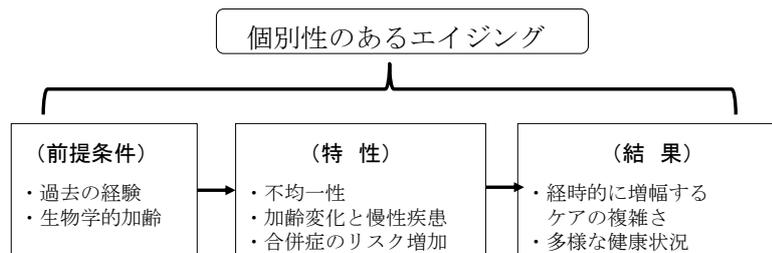
本学の老年保健看護の教育では、サクセスフルエイジングを重要なキーワードとして位置づけ、個別性のあるエイジングについて取り上げてきた。本論文で示された個別性のあるエイジングの概念の構成要素である「前提条件」、「特性」、「結果」は教育内容に包含され、特に「前提条件」については、生活史や加齢変化の把握を重視してきた。ところが、「特性」については、高齢者ケアの課題である認知症や高齢者に特異的な老年症候群に特化した授業を行っており、個別性のあるエイジングの理解を深めていくためには、教育方法の工夫が課題であった。

---

### 活用した論文の概要

本論文の研究目的は、個別性のあるエイジングを、概念分析により定義し、老年看護を専門として看護師養成のプログラム（ACES フレームワーク）に必要な知識領域を明確にすることであった。その結果、個別性のあるエイジングは「前提条件」である“過去の経験”と“生物学的加齢”が高齢者の生活に影響を与え、概念の「特性」を形作っている。そして、“不均一性”、“加齢変化と慢性疾患”、“合併症のリスク増加”という

「特性」に着目することで、高齢者ケアが改善できる可能性が示唆された。



---

### 教育及び実践への活用

高齢者ケアの改善のために、個別性のあるエイジングの「特性」についての強化を行った。具体的には、老年保健看護Ⅱの授業において、“高齢者の慢性疾患と合併症のリスク”を追加した。

高齢者の糖尿病やリウマチ等の慢性疾患の自己管理は、高齢者特有のケアがある。そのことを、具体的事例を通して講義に取り上げた。また、合併症のリスクとして、加齢変化による薬物代謝を踏まえた内服自己管理を、学生の自己学習に組み入れた。

個別性のあるエイジングの「特性」を強化することで、高齢者の多様な健康状態やケアの複雑さの理解を深める。

---

### 参考文献

Daniel D. Cline(2014) : A Concept Analysis of Individualized Aging: Nursing Education Perspectives, 35(3), 185-192.

---